

文 化

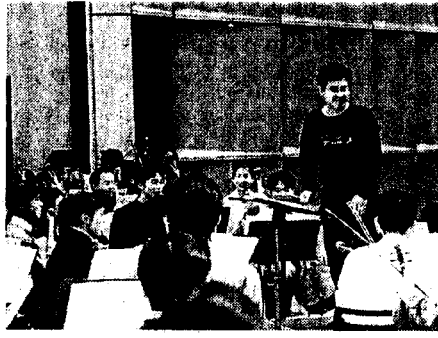
ウァイオリンからコントラバスまでの弦楽器奏者たちが一斉にユニゾン(斉奏)で荘厳な旋律をかなで始める。トランペットを構えて舞台奥にいた私は、指揮棒が振り下ろされた瞬間から鳥肌が立ちっぱなしだった。旧ソ連を代表する作曲家、ドミートリ・ショスタコーヴィチの交響曲第七番「第一楽章冒頭」の話だ。

♪♪♪

これまでに35曲
一九九三年一月三十一

日、一つのアマチュア・オーケストラが、東京・府中の森芸術劇場で産声を上げた。その名は、オーケストラ・ダスピダーニャ。ショスタコーヴィチの交響曲第七番の演奏を目的に二年間にわたって準備し、この日にそなえた。予算が足りずに、指揮者の長田雅人氏に「格安のギャラで」とお願いしたところ、快く引き受けて下さった。公演は大成功。団員全員がその感動を忘れられず、以後毎年一回、演奏会を開いている。

ダスピダーニャがプロ、アマを問わずほかの団体と違うのは、曲目のほとんどがショスタコー



練習に励むダスピダーニャの団員たち

協奏曲第二番を共演した。来年三月には交響曲第十五番という難曲に挑戦する予定だ。

明治大学交響楽団のOBが卒業後、大学近くの居酒屋に集っているうちに意気投合してできたのがこの団体だ。「ダスピダーニャ」は「さようなイメージが強い。しかし、実際に演奏してみると感じ

♪♪♪

表情豊かな音楽
ショスタコーヴィチといえ、交響曲第五番第四楽章のような戦闘的なイメージが強い。しかし、実際に演奏してみると感じ



白川 悟 志

本音秘めた魅惑の旋律

◇ショスタコーヴィチの作品取り上げ、楽団で演奏◇

「格安のギャラで」とお願いしたところ、快く引き受けて下さった。公演は大成功。団員全員がその感動を忘れられず、以後毎年一回、演奏会を開いている。

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。

から採った。現在の団員は明大OB以外にも広がり、百人をこえる。二十〜四十代がほとんどで、会社員、教員、公務員など様々だ。

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。

たことだが、諧謔味たっぷりで、天上に昇りそうなど透明感があり、美しい旋律が続いたり、多面的な音楽を展開している。交響曲第七番第三楽章は、実に清らかで美しい木管楽器の和音展開で始まる。祈りの音楽と形容すれば誰もが納得するだろう。

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。

「レミドシ」が体制にあらうかのように自己主張する。組織の中で自由にものを言えないのは現代日本の企業社会にも通じる話。そう考えると作曲家の気持ちがよく分かり、演奏にも身が入る。

♪♪♪

自ら書き起こし編曲
日本で演奏される機会がない曲を取り上げるこ

追いかけてこの場面を表現したこの曲では忙しい音列が続く。展開があまりに楽しく、私の頭の中に楽器の割り振りが自然に浮かび、オーケストラ用に編曲してしまっ

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。

とも多い。楽器別のパート譜がない場合は、写譜業者に総譜からの書き起こしを依頼している。ただし、自分で書き起こしたこともある。映画「コルジンキナの冒険」(一九四〇年)の音楽「追跡」で、二台のピアノ用の曲だ。

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。

一九九七年一月、仲間四人とモスクワのショスタコーヴィチの墓を訪ねた。自分たちの活動を墓の下に眠る作曲家に報告した後、二本のリコーダーで交響曲第十番などを演奏した。

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。

途中で作曲家自身のテーマ「レミドシ」が出てくる。ところが、本来はミを半音上げて吹くべきところを間違えてそのまま吹いたので短調が長調に転じ、幕前が明るい空気に満ちてしまった。諧謔性を一つの味とするショスタコーヴィチゆえ、笑って許してくれたことだろう。(しらかわ・さとし「オーケストラ・ダスピダーニャ団長」)

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。

「ウイッチの作品である」と。理由は当然、みんなこの作曲家が好きだから。過去、アンコールを除いて延べ三十七曲を取り上げてきたが、このうち三十五曲はショスタコーヴィチの作品だ。